平成27年度包括外部監査

監査のテーマ：千葉市が実施する廃棄物対策事業

(ごみ減量・再資源化事業、ごみ処理事業、し尿処理事業、浄化槽指導事業及び産業廃棄物対策事業)

に係る事務の執行について

第3 外部監査の結果

II 廃棄物対策に係る監査結果について

II - 2. 清掃工場におけるごみ焼却等業務について

8. 焼却灰の再資源化について

(3) 結果

監査の結果（指摘事項の概要）	講じた措置
② 種目別・細目別の設計書の作成について【廃棄物施設課、北清掃工場】（報告書 P152） 千葉市契約規則（平成25年4月1日施行）によると、予定価格に関連して次の条項が規定されている。また、予定価格の決定に際しては、設計書を作成して標準的な業務委託の金額を算定し、その設計金額に基づいて予定価格を決定し、この予定価格と業者の入札価格との比較を行うこととされている。 （予定価格） 第10条 契約事務担当職員は、競争入札に付する事項の価格については、当該事項に関する仕様書、設計書等によって予算の範囲内において予定価格を決定しなければならない。 第11条 予定価格は、競争入札に付する事項の価格の総額について定めなければならない。ただし、一定期間継続してする製造、修理、加工、売買、供給、使用等の契約の場合においては、単価についてその予定価格を定めることができる。 （予定価格） 第22条 契約事務担当職員又は当該契約事務を所管する局の長は、随意契約によるるときは、あらかじめ第10条及び第11条の規定に準じて予定価格を定めるものとする。 仕様書は、委託業務の内容等を詳細にわたって定義する資料であるのに対し、設計書は仕様書に記載された各項目について積算することにより予定価格の基礎となる設計金額を算定するための資料である。また、独自の積算に基づく設計書の作成には、委託業務に対して経済性、効率性を求めるための発注者側の評価ツールという役割	焼却灰処分業務委託契約に係る設計書の積算については、当該業務は業者独自の処理方式であり、第三者が適切な積算を行うことは困難であるため、県外を含めた近隣類似施設の処理単価の調査を行い、現在の契約単価が適切な価格の範囲内であることを確認した。

も期待される。すなわち、詳細な業務分析を実施し、業務の無駄がないかどうかをチェックし、工数削減が見込めそうであればそれを設計書に反映することにより、契約段階でも業者に対して効果的、効率的な業務遂行を促すことが期待される。

ジャパン・リサイクル株式会社への焼却灰処分業務委託契約に係る設計書については、前年契約単価と同一金額で処分 1 トンあたり委託単価が記載されているのみであり、種目別、細目別に積算されていない。また、県内における一般廃棄物である焼却灰を埋立て処分以外で受け入れることができる唯一の業者であることを理由として他の業者からの見積書も徴収していない。

今後は、市として経済性、効率性を伴った執行を確保するためにもジャパン・リサイクル株式会社への焼却灰処分業務委託契約について、種目別、細目別に積算された設計書を作成されたい。なお、積算方式での設計書の作成が困難と認められる場合には、複数の業者から見積書の徴取、過去の同一役務等の調達実績、市場価格、他の団体における契約金額等を考慮する等、見積や取引実例との比較を行い、より適正な予定価格の設定に努められたい。

また、契約方法についても、委託業者が県内における一般廃棄物である焼却灰を埋立て処分以外で受け入れることのできる唯一の業者であることを理由として随意契約としている。しかし、廃棄物処理法第 6 条の 2 は県外事業者の入札参加を全く認めない趣旨ではないものと考えられるため、場合によっては県外の事業者を含めた入札により、競争性を高める契約手法を採用することを検討することや仮に県外事業者の入札参加を考えない場合でも、入札に際して設定する予定価格やその前提としての設計書上のコスト情報の適切性を検証するための情報を県外の団体や事業者等から入手するなどの取組を実施されたい。